

飯山市第6次総合計画策定 第1回飯山市基本構想審議会 会議概要

1	会議名	第1回飯山市基本構想審議会
2	日時	令和4年9月1日（木）15時～17時
3	会場	飯山市公民館 2階 講堂
4	委員出席者 （順不同）	稲生委員、村山委員、小林委員、手塚委員、坪井委員、高澤委員、 鷺森委員、西川委員、伊東委員、松永委員、荻原委員、大口委員、 吉越委員、内山委員、今清水委員、岩澤委員、山室委員、出澤委員、 丸山委員、直江委員、高野委員、滝澤委員、近藤委員、山崎委員、 本間委員 ※欠席 上村委員
5	事務局出席者	総務部長、事業戦略室長、事業戦略室事業戦略係長、 企画財政課企画調整係長
協 議 事 項 等		
1	開 会	（進行：総務部長）
2	市長あいさつ （市長）	（進行：総務部長） 皆さんこんにちは。今日は、第1回の飯山市基本構想審議会に大変忙しい中、皆さんお集まりいただき感謝申し上げます。 この基本構想審議会は、飯山市の一番施策・政策の基本となる10か年の構想を含む審議会である。今回は第6次の基本構想であり、来年度から10か年の飯山市の方向をつくっていく、非常に大事な構想である。今日は飯山市内の様々な分野・年齢層の方と幅広く、一番若い方は高校生に出席いただき、これから10年間の計画をつくる。この後事務局より様々な説明があると思うが、しっかりと皆さんのご意見を出していただき、これからの飯山市の10年間でめざす方向をしっかりと決めていただきたい。今日は素案を参考にしていただき、いい計画・構想をつくっていただきたいと思う。これからの飯山市づくりにとってまさに根幹となる非常に重要な構想となるので、忌憚のない意見を出していただき、いい計画ができるようお願い申し上げます。
3	委嘱書交付 <資料1> （総務部長）	（進行：総務部長） 手元の資料1を確認いただきたい。資料1は、審議会委員の名簿、裏面が条例になっている。まず委員については名簿のとおりであり、今回このメンバーで審議会を行う。また、本審議会は、「飯山市基本構想審議会条例」に基づき設置されていることをご了解いただきたい。 次に、委嘱書については各委員の手元に配付しているので、氏名等を確認の上、受け取って

もらいたい。よろしくお願いします。

続いて、委員の自己紹介を簡潔にお願いします。

※委員自己紹介後、事務局の紹介

4 正副会長の選出 (進行：総務部長)

(総務部長)

正副会長の選出については、条例第5条に「審議会に会長及び副会長1人を置き、委員が互選する。」とある。条例に従い、委員間での互選で決めさせてもらいたい。互選に先立ち、選出方法等、委員の方の意見はあるか。

(委員)

前回・前々回はどうかだったのか知りたい。これだけの会議となると、前回された役職の方が適任ではないかと思う。

(総務部長)

前は互選で、会長については商工会議所の会頭、副会長については農業委員会の会長がそれぞれ推挙され、務めてもらった。

只今、委員の皆さんから「そのような方法でいいのでしょうか」という発言があり、今回の互選についても前回は踏襲し、同様でよいか。

－会場で賛同の拍手－

それでは、会長には商工会議所会頭の伊東様、副会長には農業委員会会長の松永様にお願いする。改めて委員の皆さんから拍手をして、承認いただきたい。

－会場で賛同の拍手－

伊東会長、松永副会長は席の移動をお願いしたい。

それでは、伊東会長、松永副会長よりあいさつをいただきたい。

(会長)

よろしくお願いします。先ほど市長から話があったように、これから迎えるであろう10年間の飯山市の将来を見据えた大事な構想である。私事だが、この10月には2期目の任期を迎えるため、(会長の)途中交代があるかもしれないが、松永副会長が長く携わっているのでカバーしていただけたらと思っている。

いずれにしても皆さんの絶大なる協力をいただき、ぜひこの構想が素晴らしい構想になるようにご協力いただきたい。よろしくお願いします。

(副会長)

松永です。よろしくお願いします。市政のこれから10年間の基本政策を決める大変重要な会議である。会長を補佐しながら、素晴らしい方針ができるよう務めさせてもらうので、よろしく

ご協力をお願いしたい。

5 諮 問 (進行：総務部長)

(総務部長)

市長より会長へ諮問を行う。なお、委員の手元資料には諮問書の写しがあるので、参考にしてもらいたい。

－足立市長から伊東会長へ諮問－

これより審議に入るが、市長は他の公務があり、審議には時間が許す限り参加し、途中退席となることをお許しいただきたい。

ここからは伊東会長の進行でお願いしたい。

6 審 議 (進行：伊東会長、説明：事務局)

(1) 総合計画について <資料2>

※資料に基づき事務局説明

(2) 審議会の持ち方(案) <資料3>

※資料に基づき事務局説明

(市長)

申し訳ないが、途中退席させてもらう。よろしくをお願いしたい。

言い忘れた点がある。国立社会保障・人口問題研究所から日本全体等の人口の予測が出ている。2021年の飯山市の人口予測もあるが、昨年の実人口と比較すると実際には300人程多い。社人研が予測したよりも、飯山市の人口は300人程多くなっている。10か年の構想のなかで、ソーシャルキャピタルというのは非常に大事である。過去のデータを追っていくだけではなく、そこにいろいろな施策等がはたらき、対策することも大事だということを付け加えさせていた。ご審議をよろしくをお願いしたい。これで途中退席させてもらう。

(3) 基本構想検討における取組経過

①まちづくり市民アンケート調査 <資料4>

※資料に基づき事務局説明

②基礎調査の実施 <資料5>

※資料に基づき事務局説明

③第5次総合計画の総括 <資料6>

※資料に基づき事務局説明

④素案づくりの経過 <資料7>

※資料に基づき事務局説明

(4) 基本構想(素案) <資料8>

※資料に基づき事務局説明

(会長)

膨大な資料を短時間で説明してもらったが、皆さんの手元に資料があるので見てもらっていると思う。我々高齢者にとっては、横文字の内容を理解することが非常に大変な作業であると思う。若い高校生も委員としているので、忌憚のない意見を出していただきたい。今日は全体の流れや資料説明等に終始するが、後ほどご意見等を伺っていききたい。

今日は本題に入る一つ手前の序口なので、何でもいいので全体的な意見や質問等の発言をしてもらいたい。

(委員)

質問がある。基本構想で「飯山郷創(きょうそう)」と四文字熟語のような言葉が大黒柱で載っているが、先ほど説明があったように「郷創(きょうそう)」というのは造語であって、今まで私も耳慣れない言葉だと思った。一番の土台になる言葉として、この造語はどこで生まれたのか、どういう経過で生まれたのか簡潔に説明いただけるとありがたい。資料7に経過があるが、この段階でこの言葉が出てみんなで承認してそうなった、ということが分かればうれしい。

(事務局)

資料7を見ると庁内会議、市民会議がある。今回の将来像については、主に市民会議であり、例えば5月25日には市民アイデア会議と庁内アイデア会議が合同でワークショップを進めた。(資料7の)裏にはワークショップの状況写真もある。ここでは、いろいろな意見が出て付箋が貼ってあるが、キーワードをたくさん並べて飯山市の魅力をいろいろ挙げてもらった。その中で「ふるさと」や「里山」等のワードをつくり上げていく中で、何か飯山独自のものがないか、ワードを拾い上げながら「飯山郷創(きょうそう)」というワードをつくり上げた。

(委員)

ということは、1つの付箋の中に「郷創(きょうそう)」という言葉が出ていてそれを選んだのか、または、いろいろなイメージを合わせて「郷創(きょうそう)」という言葉にしたのか、

そこを教えてください。

（事務局）

付箋には「郷創(きょうそう)」という文字はなかった。「ふるさと」など飯山を象徴するイメージがあり、そこからくっつけて「郷創(きょうそう)」として事務局から提案した。

（委員）

それは第3回のアイデア会議の際にワークショップのとりまとめとして、「前回の皆様のご意見はこういう言葉だったので、これからまとめていきましょう」と皆さんに了解いただいたのか。そこで力を、生命をもってスタートした言葉なのか。6月17日の市民アイデア会議でしっかり息づいた言葉だと受け取ってよいか。

（事務局）

具体的な流れは、5月25日にワークショップを実施し、写真にもあるように、いろいろ付箋に書いてもらってまとめていった。その後、6月17日にこの中から将来像の案を出し合いながら、3つ4つ出して協議してもらった。飯山の魅力・特徴はいろいろあり、まとまるかまとまらないかの段階で再度工夫しながらまとめたものを、7月26日に提案させてもらった。いくつかあったが、その中でこの「郷創(きょうそう)」を認めてもらったという経緯である。

（委員）

確認だが、7月26日に「これでいこう」ということで決まったのか。

（事務局）

はい、そうである。

（委員）

分かった。

（会長）

アイデア会議に出席した方で、補足等はないか。

（委員）

今説明あった時系列で間違いない。アイデアもたくさんのいろいろな言葉が出てきた。例えば、美しい季節を表したい場合、「飯山の季節は四季にこだわらず八つあるのではないか」「もっとあるのではないか」とか。二十四節季をもじって八節季とか、いろいろな造語が出た。

また、「もっときちんと飯山のいいところを詰め込みたい」と「里山」や「まちづくり」「子ども達がいて」とか、長文も含めて多くのキーワードが挙がった。それらに凄い「思い」が詰まっていて、いくつか会の方でキーワードやアイデアを出して事務局で取りまとめてもらい、

この「郷創(きょうそう)」という言葉が出てきた。

人口減少は絶対に起きることであり、この数年で増加に転じることは無理な話である。10年間の計画ではあるが、10年後、20年後、30年後、100年後に飯山が残っているように、そして、限界集落や消滅集落と言われるようにどんどん人がいなくなっている土地はあるので、持続していけるまちづくりをするために、「故郷を創る」という意味でも「郷創(きょうそう)」という造語がとてもいいということで、皆さんで選んだ。

(会長)

よろしいか。他に何かご意見等はないか。アイディア会議に参加した方、他にはないか。なければ、今説明いただいた内容でご理解いただきたい。

(委員)

多くの資料説明があり、順を追って聞きたい。まず、資料3の「審議会の持ち方(案)」について。スケジュールを見ると基本構想の審議が3回、その後基本計画を審議するが、これは2回しかない。基本構想は構想なので基本的なことを書く、列記する。大事なのは、施策をいろいろ掲載する基本計画が非常に重要ではないかと思う。この審議会からその基本計画への意見出しは、この2回で終わりということなのか。庁内で一生懸命検討した内容に対して“お墨付き”を付ける、という考え方でよろしいか。

(事務局)

基本計画の会議が2回でいいのか、という質問について。今計画しているのは2回だが、審議が足りないということであればその段階で回数を増やしていくことも検討するが、今のところは2回の予定で進めさせてもらえればと思うので、よろしく願いしたい。

(委員)

2回やって第4回で時間になりました、と。審議が白熱しそうであれば、第5回は半日実施してもらおうとかなないと、審議尽くせないまま終わってしまうのではないかとという危惧がある。

あと、資料6の「飯山市第5次総合計画の総括」の16ページ上段に『その他、後期基本計画(平成30年～令和4年度)に掲げた施策毎の達成目標数239の内、「達成」、「概ね達成」は203で、全体の80%を占めました。』とあるが、どんな施策があり、達成した施策が何で、達成しなかった施策は何なのかを明示してもらわないと、参考にならないのでお願いしたい。

それと、資料8の「飯山市第6次総合計画 基本構想(素案)」の17ページ、「飯山郷創(きょうそう)」の5行目「…、地域固有の風土を形成してきました。いま、時代の大きな転換期を迎えています。皆で知恵を出し合い、…」とあるが、違和感がある。「いま、時代の大きな転換期を迎えています。」の転換期とは何なのか。先ほど考えたが、「新たな時代の変化に対応を求められています。」とした方が、流れがいいのではないかと検討願いたい。

先ほど会長の発言にあったが、我々は昔こういうものをつくる時にはなるべくカタカナや横

文字は使わなかった。非常に分からない言葉がたくさん出てくるので、是非注釈をつけてもらいたい。

(委員)

確かに、カタカナ表記は多いという印象があるので何とかならないか。

あと、注釈を使わないといけなような言葉や表現がかなりあり、これもどうかと思う。本文の方でできるだけ平易な文章を心がけてもらい、注釈等を付けなくてもいいようにしてもらえないかと思うので、修正可能であればお願いしたい。

(事務局)

後期基本計画に掲げた施策ごとの達成目標に対する達成状況については、次回審議会で資料として提出する。

基本構想についてそれぞれ提案があった内容については検討させていただくとともに、今後の審議会の中で提案させていただきながら固めていければと思っている。

(委員)

資料8の「飯山市第6次総合計画 基本構想(素案)」の16ページ、最初に「里山」という言葉が出てくるところで「里山」が1つのキーワードになっていると思う。

同ページ4段落目の「飯山市の最大の魅力は、…飯山ならではの「里山」が、30代の若者世代を中心に日本人だけでなく外国人をも移住先として惹きつける魅力となっています。」と書かれているが、このバックデータがあるともっと説得力を持つと思うので、170名あまりの移住者のうち30代が何名で、飯山を選んで移住してきた理由が「里山」であるということが出てくると、ここに「里山」が出てくる価値や意義があるのではないか。

また、「里山」が1つのキーワードになっていると思うが、その使い方・意味が、最初に出てくる『飯山ならではの「里山」』というのは本来の里山だと思う。それが17ページ下段になると、注釈で「里山」とは「飯山市全体をいう。」となっている。見開きのページで「里山」という言葉が出てくるのに、一方では本来の里山であり、他方では飯山市全体を指す言葉であるというのはどうか。「里山」を使うのはとてもいいと思うし、キーワードにしていくのは大事だと思うが、このへんをみんなで議論をしていく必要があるかなと感じた。

(委員)

会長の発言にもあったとおり、読みづらい言葉「ダイバーシティ」「ICT」「IoT」等たくさんある。この基本構想は誰が読むのか。基本目標の5項目は行政分野で頑張るところで、その基となる基本構想だと思うが、市民はインターネットでも見ないと内容が分からない言葉が多く、ちょっと戸惑うのではないかと私も思った。

先ほどの「里山」の件は、「里山」が科学的にどういうもので、飯山市が全国で飛び抜けて「里山」という機能をたくさん持っているところなのかどうか。情感的には「里山」の美しさがあっても、数値として確認できるものなのかどうか疑問である。

委員の発言にもあったが、この短いスケジュールの中で審議を尽くすことが本当にできるのだろうか、という心配がある。そのため、基本構想に関する意見というところに私も質問をたくさん書き、次回までに教えてもらえる部分があればと思っている。

全体を見た時に、飯山市の農業が大事だと思うが、農業分野について書いてある部分が基本構想にはあまりないような気がする。資料8、22ページの政策分野に「世界に誇れる技術と産業が活発なまち」の中に政策分野としての農林業が入っているが、この程度のまとめで基本構想としてこれでいいのだろうか。第5次総合計画では、農業分野についてももう少し丁寧に書いてあったと思うし、これからも大事にしていかなければならない分野だと私は考えるが、そのへんが3回の会議で言い尽くせるかどうか不安に思う。

先ほどの「郷創(きょうそう)」は、私も年配者なので違和感がある。「郷(きょう)」「創(そう)」と音的にも強い感じがする。市民アイディア会議の中で揉まれて出たのであれば、若い人達が考えてくれたものだから尊重しようという気持ちにはなるが、若干、年配者は違和感があるということを伝えておきたい。

また、観光客を呼び込みたいという思いが大きいと思うが、次回までにもし用意できればお願いがある。伊勢志摩バリアフリー観光…とか言う、長年取り組んでいる日本で一番バリアフリーが進んだ観光地がある。飯山市も高齢化するが、観光客も日本全国高齢化すると思う。いち早く長期的に、徹底的に飯山市の観光地をバリアフリー化することで、脚が悪い人も車いすの人も、どんな人も喜んで飯山市に来て観光ができれば素敵だと思う。伊勢志摩の資料があれば用意してもらいたい。

それから、子育て支援については明石市がとても子育て支援に力を入れていて、人口がどんどん増え、子どももどんどん生まれている例があるようだ。それを審議会の中で活かせる議論になるかどうか分からないが、資料を提示してもらえるとありがたい。他の意見については書いて提出する。

(事務局)

委員の皆さんから様々な意見をいただいた。次回の審議会で提示できる資料は用意しておき、議論の参考としていただければと考えている。

また後で説明するが、先ほど委員の発言にあった「飯山市総合計画基本構想に関する意見」として自由に意見をいただく様式を準備しているので提出してもらい、それに基づき、次回審議会の中で説明していきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

(委員)

資料8、基本構想の24ページ「安全で安心して暮らしを愉しめるまち」の4つ目の丸(○)に「続けたいと思えるよう、時代に対応した集落のあり方を模索する」と記載があるが、既に人口も減っているのに「模索」しては遅い。総人口としては1万人いるが、集落ごとに見れば絶滅寸前の集落がかなりあり、高齢化率80%の集落もある。このままではあと5年、10年の間にいくつかの集落はなくなっていくと思う。「模索する」のではなくて「早急に検討する」等の文言に変えてもらえないか。これは区長会としてのお願いである。

(事務局)

その点については、今後の審議会に提案させてもらう中で審議いただければと思うので、よろしく願いしたい。

(委員)

まず、この会議資料を事前に作成するのは大変だったと思う。これからの会議も非常に大変なのではないかと、大変ありがたいと思っている。今日もらった資料作成にあたって、基になる資料があると思うが、それは前回に記載があった部分と誰かが考えてこうなっていると思う。この資料の中身の文言等は、誰がどこでどのように作成したのか。

(事務局)

基礎資料については、主には本計画の原案策定を支援しているコンサルタントである。主にデータ分析や統計データの作成をしてもらってる。

(委員)

構想的にできればいいと思うことだが、一つ一つ書いてあるものをすべてOKとして構想として成り立った場合には、非常に大変なエネルギーが必要であり、果たして10年でクリアできるのかと疑問に思うものもかなりあると思う。

飯山市の魅力の中で「季節の四季がいい」「里山」等もある。私も季節は非常にいいと思うが、それをどうやって人に発信するかもそうである。「里山」につながることだが、飯山は周辺が山なので、その山や地域を守っている人達がそれぞれの地区であり、集落である。そこで暮らす人達が「自分達の土地」ということで、人数が少なくなって年をとっても守っているという一つの力があるかと思う。そういう人達の力がすべてに於いて飯山市を支えている、と私も感じている。

皆さん各種団体の役職の長が集まっている中で言いづらい面はあるが、これからの10年先の飯山市を考えていく中で、どうしても団体の「長」となると年配の人達がこのように集まることになる。きっと若い人達の意見等もあると思うが、これから10年先を考えていくことに対して先ほどの「横文字が分からない」…、私も分からない部分はあるが、一つそういうことがあったりタイミングも必要だが、そういうことを考えると集まる人達が悪いわけではないが、もう少し違う形やもう一つ下の段階で何かを始めてこういう場に持って来て考えるのもありではないか、と今日初めて来て率直に思った。

ただ、「飯山市をどうするか」というところで支えになってもらうのは30代、40代の人達で、そして今日は高校生もいるので10代の人達がこれから本当にここに残ってくれるのかどうか。人口減少の理由としては仕事の面や子育て、結婚等で市外に出てしまうとか。そもそも大事な部分は、人がいるかいらないかを見ていかないといけない。非常に大変な会議であるが、真剣に取り組んでいければと思っているので、よろしく願いしたい。

(会長)

農業に関してはあまり触れていないという意見があったが、関係者の方からご意見等あれば。

(委員)

今話を聞きながら、なんかいいな、と思った。たまたま昨年、20年構想をつくったので見ていただければと思う。長野県全体だが、その中に構想部分あるので、基本構想に入れてもらえればいいなと思いながら聞いていた。

(会長)

高校生が2人来ていただいているが、何でも良いのでご意見はないか。

(委員)

社会全体的に子どもの数が減ってきていると思うので、先ほど話があったように、他の上手くいっている自治体や国の例を参考にして、資料として見ていろいろな視点から議論することは必要かと思う。

(委員)

農業分野で言えば、現状の分析から入るとすれば、コロナ禍の問題があり、アフターコロナの中では教育分野ではICTやIoTなどが進み、外部で仕事をしている方がこちらに住んでいながら通信手段を使って仕事ができる、という社会が進んでいくと思うが、それに飯山は適切な地であると思う。

それと同様に、温暖化はしばらく続くと思う。飯山の米は素晴らしく美味しくて、どこにでも誇れる米だと思う。これからさらに暖かくなってくると、北海道からの米が気になる状況になり、飯山の農業も負けていられない。私達は応援団の気持ちとして、長いスパンで温暖化が進む中でこれからの作物、どのようなものを育てていけばいいか、どうやったら収益をあげることができるか等の研究が進んでいけばいいなと思う。それは市単位だけではなく、長野県域となるだろうが、農林高校等これからの研究の推進役になってもらいたい。これは夢ではなく、今から進めていってもらいたいと感じる。

(委員)

人口減少が大変な課題であるということだが、おそらく人口減少はこの数値で見ている数値以上に、10年後まちを歩いている人の数は極端に減り、おそろしい状況になると思う。高齢者が1万何千人と数値にはあるが、実際、家から出ていないと思う。生産年齢人口も減ることだが、市役所も我々民間も担い手を確保することが難しくなる。この状況が、この10年間で確実に進んで起こってくる。

基本目標の1から5に私は非常に共感し、「素晴らしい。やはりこうあるべきだ。」と思っている一方で、10年はあつという間に過ぎるので、これを取捨選択する必要があるかもしれない。ここまで議論が修練していく中で、アイデア会議で「こういうものがあつ

たけどやめた」「これらを一緒にしてこういうかたちでまとめた」とかの変遷をぜひ知りたい。

あと質問にも出たが、基本方針のもとで実施計画が10年一気に走っていく必要がある。トライ&エラーで見直すこともあるかもしれないが、この下の基本計画の議論こそがやっていかないといけないのかな、という感じを私も持った。

(会長)

いろいろ議論いただき、この資料に不足している点などの意見をいただいた。何か意見等がないか。

(委員)

子育てをする立場から、「飯山郷創(きょうそう)」として掲げられている2番目の「未来を拓く子どもたちが育つ共育のまち」の中で、この10年間の中では市内小学校の統合が大きな問題とされている。子ども達の将来的な教育のまちと掲げているものの、10年間で飯山市の小学校は2校になってしまうということで、もう少し内容を深く掘り下げ、踏み込んでいただきたいと思う。よろしく願いしたい。

(事務局)

今の「未来を拓く子どもたちが育つ共育のまち」の中で、この10年間に小学校統合の予定が計画されているのでもう少し掘り下げてはどうかという意見であった。その議論も今後、審議会を通していただくとともに、深く掘り下げて施策に反映していく部分は、先ほどから話があるように基本計画で施策については検討・審議いただくことになるので、その段階で議論いただければと思う。よろしく願います。

(会長)

第1回目の会議でいろいろな意見・質問をいただいた。それについては資料に反映し、意見等の内容のとりまとめもしていただき、皆さんに示していただきたいと思う。

この会議は5回を予定しているが、必要に応じて何回か増やしてもらうことは可能かと思うので、資料を熟読いただき、よりよい構想が検討できれば、今後の飯山市のためになるかと思う。老若男女問わず、次回会議までには資料を見なおしていただけるとありがたい。

このような会議のとりまとめは大変だが、できるだけ皆さんのご期待に添うように頑張りたいので、ご協力をお願いしたい。

(事務局)

ご協議いただき、感謝申し上げます。

次回の会議日程について、先ほどの会議の中では5回で足りるかどうかなどの話があったが、次回の日程について事務局案を説明させてもらう。

(5) 次回の会議日程

(事務局)

次第では9月28日水曜日となっているが、10月4日火曜日に変更した。時間帯は15時からで、また通知を送るのでよろしくお願いしたい。

また、本日「飯山市総合計画基本構想に関する意見」という資料を配布した。今回様々な意見をもらったが、言いそびれた意見や改めて資料を見て感じたこと等、どんなことでもいいので提出してほしい。次回の会議には、今回出してもらった意見やこちらの対応も含めて提案・提示していく。

7 その他

※事務局より事務連絡

8 閉 会 (17:00)